

教皇へのクルド難民弁護団の感謝の言葉

ローマ教皇が、トルコ国籍クルド人を含む、日本に住む難民認定申請者の若者を「若者の集い」に招かれ、日本の難民の苦境にご関心を寄せていただいたことに、深く感謝し、多大な敬意を表します。

先には、今年6月の大村入国管理センターにおける被収容者の餓死について、入管庁が「対応に問題がなかった」と発表したことに接し、菊池功東京大司教区大司教は、「男性の命を奪ったのは、「勝手に死んでいったんだ」という言葉、そしてそういう意識が蔓延している状況そのものだ」とのご見解を公表されました。

法務省は、日本に庇護を求める者の99%以上(トルコ国籍クルド人については100%)を拒絶し、さらに収容所に無期限に拘束して虐げて帰国を強いることを試み、それでも庇護を求め続ける者を強制送還する法改正を図っています。

教皇のお示しになった行動によって、人間が進む方向は法務省の持つ精神とは異なるという確信を新たにします。

現在協議中の収容・送還専門部会(法相諮問機関)の委員の皆様が、この問題が一省庁の権限の問題ではなく、人命を左右する、世界が責任を負う重い人道上の問題であることを踏まえて、良心に恥じない議論をされることを願ってやみません。

またこの機会に、世界の多くの皆様が、日本にいる難民の窮状を知ることを、期待します。

クルド難民弁護団

連絡先：大橋毅法律事務所

TEL03-5951-6440 Fax03-5951-6444

to21709@swan.ocn.ne.jp